

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4097300059		
法人名	医療法人浮羽外科医院		
事業所名	グループホーム浮羽		
所在地	福岡県うきは市浮羽町東隈上331-1		
自己評価作成日	令和3年2月19日	評価結果確定日	令和3年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市南区井尻4-2-1	TEL:092-589-5680	HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和3年3月11日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

- 母体が医療機関であるため、健康管理・栄養管理に関して安心である
- リハビリ体操や、機器を使ったリハビリ（同一法人医療機関の協力による）、うきは市作成「うき8体操」で毎日体操を行ったり、健康増進に努めている
- 毎月のお便り新聞の発行により、家族との連絡を密にしている
- 畑の管理・収穫・利用で、利用者の楽しみを増やすようにしている
- 毎月のイベント行事で、利用者の気分転換を図っている

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所周辺には、田んぼや畑、コンビニエンスストア、スーパーマーケット等があり、菜の花が多く咲いている静かな環境に恵まれた場所に「グループホーム浮羽」は立地している。医療機関が母体であるため、日常的な医療については必要時提供されている。また、整形外科が主体の医療機関の併設事業所のため、事業所内でもリハビリをする機会を持っており、リハビリや体操にも力を入れて、利用者が少しでも寝たきりにならないように取り組んでいる。事業所で夏祭りを開催した時は、利用者や利用者家族、地域の方々にも式次第を作成して案内をしたり、地域にポスティングをして関連事業所の職員の応援を得ながら、地域と交流できる場を提供している等、地域への貢献が期待できる事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「事業所の理念」は玄関・事務室・各ユニットに掲示しており、毎月発行している「浮羽便り」にも掲載し、日頃よりその共有と実践に心掛けている。	事業所の玄関や事務所内、各ユニットに事業所の理念を掲示している。例年であれば、理念を浸透させるために、月1回職員会議を開催して、理念を皆で読みあげているが、現在はコロナ禍であるため、毎月開催していない。理念を意識出来る職員が一人でも多くなるようにしている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナ感染症流行により、地域の行事も皆中止となり、地域との交流はほとんど図れなかった。 例年は、10月の秋祭りや11月の地域文化祭に参加。「夏祭り」の開催などで地域との交流を図っている。	新型コロナ・ウイルス感染拡大防止の観点から、地域との交流は中止になっている。例年であれば、地域の公民館で開催される文化祭や、近隣で秋祭りが開催されているので参加している。また、利用者が作成した作品を事業所として出展している。町内会にも加入しており、地域の広報誌が回ってきている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年は、社会福祉協議会からの依頼により、会員様への施設見学と、「認知症の方への接し方」との勉強会を開催したが、今年は感染防止のため行わず。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議では、利用者・家族(両ユニット)・区長・民生委員・ボランティア会会長・包括・市役所職員に出席いただき、意見交換やアドバイスをいただいている。今年は感染防止のため、電話や文書での報告をおこなった。	新型コロナ・ウイルス感染拡大防止の観点から、今年度は開催できていない。事業所内で運営推進会議を開催して、運営推進会議録を作成して運営推進会議構成員に郵送している。例年であれば、2か月に1回開催しており、利用者、利用者家族、各ユニット職員、うきは市職員、地域包括支援センター職員、区長、民生委員会会長、ボランティアグループ会長が出席している。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営会議の中で実情を伝えたり、場合によっては電話にて相談したり、協力関係を築けている。	運営推進会議録を市町村に郵送したり、新型コロナ・ウイルス感染症に関するアンケート等、市町村とのやり取りを多くしている。介護保険更新申請等の際も市町村に届け出に行っている。グループホームの空き情報等、市町村からの問い合わせに対応をする事もある。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	作成したマニュアルに基づき、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。内部勉強会を行ったり、例年では外部研修に参加したりして、その実践に取り組んでいる。	身体拘束をしている利用者はいない。身体拘束適正化委員会は運営推進会議と一体的に開催されている。現在は、新型コロナ・ウイルス感染拡大防止の観点から、書面開催としている。「虐待防止、身体的拘束等の排除マニュアル」が作成されている。昼夜センサーを利用されている利用者が一名おり、使用に関しては家族に口頭にて説明をしている。玄関は施錠をしているが、ユニットの行き来は自由に出来る様にしている。

R3.3自己評価表(GH浮羽)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	医師を講師に内部勉強会を行うと共に、例年は職員が外部研修会に参加し、その復命・伝達講習を行っている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の中で、社会福祉士や後見人の資格を有する者を講師とし、勉強会を行うとともに、パンフレットを活用し支援できるようにしている。	現在、成年後見制度や日常生活自立支援事業を利用されている利用者はいない。年1回、社会福祉士の資格を所持している職員が、成年後見制度の内部研修を実施している。事業所内にパンフレットを置いており、説明が必要な際は、説明が出来る様にしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談室にて十分説明を行い、入居者や家族に不安がないよう、理解いただけるまで丁寧に説明している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	例年、運営推進会議には、利用者・家族に参加いただき、ご意見を伺っている。今年度は、電話や面会時に要望等を聞き取りを行っている。	利用者や家族等意見を反映出来る様に、意見箱を設置している。家族が来所された時に介護サービスに関しての希望等をお聞きして、日頃のケアに生かすようにしている。毎月「グループホーム浮羽便り」を作成して、近況を報告した際にご意見を頂く様にしている。家族から理美容の希望があったが、コロナ禍であり理美容に行けないので、職員が理美容をする等工夫をされている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、職員会議を開催し、意見交換や情報共有を図るようにしているが、今年度は感染防止の観点から、職員会議は少なくし、個別に話を聞くようにした。	例年であれば、月1回職員会議を開催していたので、その時に職員から管理者に意見を言えるようにしている。現在はコロナ禍であるため、職員会議の回数を減らしている。業務に漏れが出ないように、職員2人でダブルチェックした方が良い業務については、そうするように業務改善をした事があった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々の状況の把握に努め、給与への反映につなげると共に、個別に面談(会話)することで職場環境整備に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっては人権の尊重に配慮している。高齢者でも労働意欲のある方は積極的に採用している。個々の社会参加や自己実現ができるよう、勤務希望に従って勤務表を組んでいる。	30歳代から70歳代の職員が勤務しており、男性職員が1人いるが他は女性職員で運営されている。職員の中で作品作りが得意な職員や楽器演奏が出来る職員がいるので、利用者と一緒に実施して、職員の能力が發揮できる場がある。職員が勤務出来る時間に極力配慮して、職員が勤務しやすいように配慮している。	

R3.3自己評価表(GH浮羽)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者の人権を尊重するよう、勉強会や職員会議などで周知徹底を行っている。	理事長が研修講師となって、年1回は人権学習を実施して職員が参加している。研修に参加出来なかった職員や研修に参加した職員も再認識を含めて、研修資料を回覧している。また回覧して周知徹底を図った事が分かる様に、全職員が回覧印を押している。	福岡県講師団講師あっせん事業を利用して、人権に関する理解を深めてはどうだろうか。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	例年、福岡県・浮羽医師会・うきは介護ブロック協議会主催の研修会に、積極的に参加するよう推奨し、職員会議時に内部研修を行っている。今年はコロナ禍があり十分できなかった。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム部会やブロック協議会の研修や懇親会に参加し情報共有や連携に繋がるようにしているが、今年は感染防止の観点から、全て中止となった。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	早く新しい環境に馴染めるよう、本人様への声掛けを優しく積極的に行うよう、その関係づくりに努めている。対応技法としてコミュニケーションの活用を行い、ポジティブな印象をもってもらうように心掛けている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居手続き時・入居時には、家族の困っていることや不安なこと、要望を聞き取り、介護計画に反映させ、活動に取り入れている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族からの聞き取りを基に「今一番望まれていること」を見極め、まずは暫定的プランを立て、サービス内容に取り入れている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活だからできるような家事活動を主体とし、職員も集団活動をゲストの方と一緒に楽しんで過ごし、共に暮らす家族のような関係づくりに努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年はコロナ禍で面会中止のため、毎月の新聞で活動内容の報告、個々にはお便りや電話にて近況報告を行っている。		

R3.3自己評価表(GH浮羽)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年コロナ禍で面会ができていないが、テレビ電話にて遠方の方との連絡が取れ、喜んでいただけた。	コロナ禍で面会謝絶となっているが、テレビ電話を実施して少しでも家族との関係が継続出来る様に配慮している。携帯電話を所持している利用者が数名おられて、家族と話したい時に家族と連絡をとれるようにしている。入居後も、今までしていた趣味活動を継続出来る様にしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団活動と一緒にを行うことで協調性を高めることに努めている。談話などでも、全員に話しかけ孤立させないように努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退所された利用者・家族に対しては、電話でその後の経過を尋ねたり、今後についての相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりと直接話す時間を設け、意向の把握に努めている。困難な場合は、家族に尋ねたり、表情などから意向を捉えるようにしている。	本人に、思いや意向を直接聞いたり、家族に直接聞いたりして把握をしている。今まで好きだった事や好きな食べ物、趣味等を事前に聞いて、日頃のケアに生かしている。また、本人の言葉だけではなく、表情や行動等からも、本人のしたい事ややりたい事を少しでも把握しようと努力されている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の様子を、ケアマネージャーや介護事業所・医療機関などから情報提供いただき、その把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間の申し送りを徹底したり、業務日誌やケア記録を見やすいように作成し、情報共有に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議やユニット会議にて、職員個々が知り得る情報(家族面会時の状況や特変状況等)を共有し、介護計画やモニタリングに反映させている。	正職員が各ユニット3名ずついるので、職員1人が利用者を3名ずつ居室担当をしている。アセスメント作成やサービス担当者会議の設定、サービス担当者会議の要点の作成やケアプランの作成等の一連の流れは、全て介護支援専門員と計画作成担当者が行っている。	「サービス担当者会議の要点」を作成の際、各職種の参加が難しい場合は、事前に聞き取った内容を記載してはどうだろうか。

R3.3自己評価表(GH浮羽)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録簿をわかりやすい様式に作成し直し、日々の様子やケアの状況など記録し、実践に活かせるよう図っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	昨年は、連携医療機関(同一法人)に依頼して、リハビリ体操や個別リハビリの指導などに来所してもらっていたが今年はコロナ禍のため、電話などでアドバイスをもらっている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため、地域との関りは出来ないが、いずれ地域文化祭に出展できるよう、作品の制作活動は継続している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が近くにあるので、異常があればすぐに診察や往診をしてもらっている。専門医の受診が必要な際は、家族に連絡をし、適切な医療を受けられるよう支援している。	入居前に受診していた医療機関にかかっている利用者もいる。嘱託医の判断によって、精神科等他科受診をしている利用者もいるが、他科受診の際は事業所職員が介助し付き添っている。受診結果については家族に状況を報告している。夜間、医療的な支援が必要な際は嘱託医が緊急で診察する体制がある。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフに常勤看護師・非常勤看護師がおり変化があればすぐに相談でき、適切な受診や看護に繋がられている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療法人が開設しているグループホームであるため、他の医療機関との連携は十分できており、各医療機関のSWとの関係づくりも構築できている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、「重度化対応に関する指針」や「看取りに関する指針」についてご家族に十分説明し同意いただいている。	「重度化対応に関する指針」及び「看取りに関する指針」が作成されており、契約時に説明をして署名、捺印をもらっている。実際に看取りになった際は、再度、嘱託医から説明をしてもらい、その時のお気持ちを伺う事も併せて説明をしている。現在は、コロナ禍であるため実施は難しいが、例年であれば、家族が居室に泊まったり、食事や布団の提供をすることも可能な体制である。	

R3.3自己評価表(GH浮羽)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	窒息・心肺蘇生術・AEDの使用方法について医師より指導を受けており、急変時や事故発生時のマニュアルもあるが、実践力については個人差がある。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年はコロナ禍で、地域や消防署との共同訓練は行っていないが、独自に訓練を行い、非常時に備えるとともに、非常食の備蓄についても適切に行っている。	年2回火災訓練と地震についての訓練を実施している。夜間想定訓練も年1回実施している。例年であれば消防署員が来て、消防署から講評をいただいているが、今年度はコロナ禍で、消防署員を派遣しないと通達があったため、消防署員の参加はされていない。例年であれば水消火器の訓練も実施している。倉庫に食料と水の備蓄をしている。	火災訓練や地震についての訓練だけではなく、昨今多い、風水害についての訓練も実施してはどうだろうか。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の居室に入室する際は、可能な限り本人の了承を得てからにしている。利用者を氏名で呼ぶようにし、年上の方として敬う声掛けをするよう心掛けている。	管理者がプライバシー確保に関する研修を実施している。居室に入る時には、本人の了解を得て入室するようにしている。利用者の名前を苗字で呼称するように努めている。広報誌等写真掲載等の個人情報の同意書(個人写真の使用に関する同意書)を入居契約時にとっている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフが先に動くのではなく、まず本人に聞くようにしている。意思決定が難しい場合でも、本人の気持ちを考え、決定させていたでいる。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の場なので、集団レクをし利用者間の交流機会を作っているが、午後は、昼寝や塗り絵・編み物など、本人の希望を聞きながら個人レクを取り入れている。気乗りしない時は無理強いしないようにしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品や手鏡の持ち込みも可能。自分で化粧される方もいる。コロナ禍で、美容師に来てもらわず、スタッフが本人とよく話しながら希望の髪型にカットしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のその日の体調や表情を見つつ、盛り付けや食器洗い、テーブル拭きなどをしてもらっている。食事は職員もいっしょに食べている。	法人が食事委託業者と委託契約を締結して、3食提供しているが、麺をゆがいたり、ご飯を炊く、温めなおし、盛り付け等は利用者と事業所職員で共に実施している。行事の際に、リンゴケーキ作りやホットケーキ作り等、楽しみの場を提供している。敷地内で収穫したサツマイモでスイートポテトを作ったり、敷地内で収穫したじゃが芋でフライドポテトを作ったりして、提供している。	

R3.3自己評価表(GH浮羽)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事委託業者の管理栄養士が栄養バランスや摂取カロリーを考え献立を作っている。記録に食事・水分摂取量を記入し、状況に応じ職員間で改善策を話し合えるようにしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯装着者は毎食後外して自分で磨いていただいている。必ず職員が確認し、不十分な際は手伝うようにしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄間隔を把握し、トイレの声掛け誘導を行っている。職員が利用者の排泄パターンを理解して、失敗が少なくなるように取り組んでいる。	布パンツを使用している方も入居者の半数程度いるため、必要以上に介助をせず、利用者の排泄状況を把握して、少しでも今の機能が維持出来る様に配慮している。排泄チェック表を作成しているので、少しでも失禁が少なくなるように取り組んでいる。	排尿と排便の時間が分かる様な記録にしてはどうだろうか。
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然な排便ができるよう、水分補給や散歩や体操などに取り組んでいるが、どうしても便秘が常態化している利用者には主治医と相談し緩下剤を使用している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日(曜日)は決めてはいるが、本人の希望や状況に応じて変更できるようにしている。	入浴は週2回から3回、午前中に実施している。各ユニットに1つずつ個浴があり、必要に応じて浴槽のお湯を入れ替えている。好みの入浴剤やシャンプーやリンスがあれば利用しても良い事をご説明しているが、全利用者、事業所の備え付けの入浴剤やシャンプー等を使用している。入浴介助時に皮膚の確認等も確認している。本人の入浴したいタイミングに合わせて入浴出来る様に配慮している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜に十分な睡眠が取れるよう、昼間の過ごし方を考えたり、昼寝時間を調整したりしている。午前中は体操など体を動かすレクリエーションを、午後は週間活動表でメニューを変えて活動的に過ごしてもらうようにしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人用薬棚に薬事情報・おくすり手帳があり確認できるようにしている。新しい薬が処方された際は記録と口頭での伝達を徹底している。また、与薬チェック表を使って、服薬支援を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好みに合った余暇活動を提供できるよう、個別レクを取り入れたり、家事などのお手伝いをお願いしたりしている。		



R3.3自己評価表(GH浮羽)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出しやすい時期には、ドライブ(花見・紅葉見学)や散歩に出かけている。普段行けない所への外出は、行事として企画計画し、十分検討して実施している。今年はコロナ禍にて、家族との外出は制限させて頂いている。	コロナ禍であり、外出行事は自粛しているが、可能な限り、近隣の神社やハゼ並木等にドライブに行っている。また、事業所の周辺を散歩したり、庭に作物を植えたりしている。例年であれば、花見、道の駅や図書館にお連れして楽しんだり、事業内で鑑賞するDVDを借りに行ったりしていた。また例年であれば、家族と外出、外泊したり外出に行くことも多くあった。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お財布を大事にしている(お金を持っていないと落ち着かない)方へは、所持いただいている。コロナ禍で、お買い物外出はできていない。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話したいと希望されるときは、電話をかけて安心していただくよう支援している。年賀状や月々のお便りなど、書いていただいている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光、室温、湿度には配慮している。季節感を感じていただけるよう、利用者本人が作った工作や塗り絵を壁に貼っている。利用者が不快や混乱を招かないよう、スタッフの動きや音にも気を付け、安心できる環境づくりに努めている。	室温計、湿度計をユニットごとに設置して室温と湿度には十分に気を付けている。各ユニットや居室にも加湿器が設置してあり、湿度には十分配慮している。天井が吹き抜けであり、天窓があるのでユニット内は明るい雰囲気である。ソファ、テーブル、いす、テレビ、DVDが設置してあり、ゆっくり出来る空間である。今年度は、うきは市から生花(花束)が届いたので、ユニット内に飾ったり、生け花が好きな利用者があるので、生けた花を飾っている。トイレと洗面所は各ユニット3か所ずつ設置している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	レクリエーションで活動的な時間もあれば、テレビ・DVD鑑賞などのゆっくりとした時間も作っている。ソファに集まっていることが多いが、座席も考えて、仲良く過ごして頂けるよう努めている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が安心して過ごせるよう、入居時には使い慣れた物の持ち込みを推奨している。利用者の中には、使い慣れたソファやテーブルを置いたり、写真を飾ったり、過ごしやすい居室になるようしている。	介護用ベッドとテレビ、エアコン、カーテン、収納スペース、床頭台が事業所設備として居室内に完備してある。利用者の中には仏壇を持ち込んでいた方や、筆筒、家族写真、テーブル、ソファを持ち込んで、自宅で生活をしている雰囲気を少しでも感じてもらえるようにしている。畳を使用している利用者はいないが、持ち込みは可能である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員は、一人ひとりができることを把握し、過度な介助はせず、多少の時間がかかるとしても本人を温かく見守り、生活のお手伝いをさせていただいている。なるべく自分でできることは自分でしていただくよう心掛けて		